

コロナ禍と学会

塚本 晴二 朗*

「長い間副会長を務めてこられた塚本先生が……」。会長推薦の弁が始まった。観念するしかなかった。

日本出版学会は、毎年5月の連休明け最初の土曜日に、総会と春季研究発表会を開催する。今年も5月9日（土）に東京経済大学で開催される予定であったが、4月には中止が決まった。ところが、折り悪く今年度は理事改選の年度で、既に開票まで終わっていた。おまけに当時の現会長は、今回の選挙から理事任期連続3選制限を設けた。学会理事の新陳代謝を高めるためという理由である。そのこと自体は正しいのだが、そのため現職会長が選挙前から理事に当選しても辞退することを公言してしまい、選挙後にはすぐに役職者を入れ替えないといけなような雰囲気になっていた。

そんな中での総会の中止である。当然学会執行部はどうなっているのか、ということになってしまう。そこで他の学会とはやや異質だと思われるが、研究発表会はとりあえず置いておいて、総会だけを何とか実施して、新理事と新執行部だけは決めてしまおう、ということになった。遅れること約2週間、5月24日（日）にオンラインによる総会と理事会が開かれた。しかしこの時も簡単ではなかった。当選した新理事1名が、当日どうしても zoom にアクセスできないということで、総会の会場を設定する必要性が生じたのである。これも現職の会長が本務校の専修大学にスペースを確保してくださったので何とかあった。

そんな中での、新会長選出であった。自分が会長になるようなことがあれば、こんなことをしたい、という思いが全くなかったわけではない。まして今回の選挙では、「もしや」という予感がなかったわけでもない。そうはいっても「よりによってこんな時に」と思ったのも偽らざる事実である。とにかくまずは、今年度未だ開催されていない春季研究発表会の代わりになるものを開催しなければならない。既に6月を目前にしている。ここまで開催をのばしておいて、プログラムは5月9日（土）のままというわけにもいかない。再度理事会を開いて発表の募集から始めれば、どんなに早くても9月中旬が精一杯である。そうすると今度は秋の学会と近すぎる。秋の開催校とも相談した末に、春秋合同研究会というあまり聞き覚えのない名称で、9月12日（土）にオンラインで開催することとなった。

何とか、うまく動き出したかと思うと、また想定外の問題が起こった。年会費減免のお願いが、事務局に届いたのである。理由をみると、非常勤の掛け持ちで食いつないでいる会員であった。コロナ禍により、担当講座数が減らされて、会費の支払いに困っている、というのである。コロナによる失業や不況は世界的な問題であり、知らないわけではないが、学会の年会費納入にも及ぶ問題だとは考えてもいなかった。再申請を妨げない延納申請というルールを作り、対応した。

すると今度は、研究発表会当日の参加費の徴収の仕方が問題になった。正会員は年会費を払って

*つかもと せいじろう 日本大学法学部新聞学科 教授

いるのだから、徴収しなくてもいいとして、非会員をどうするかである。正会員との差をつけるためにも少額でも取るべきなのである。しかし、さほど高くもない金額を取るために、対応する術を整えていたら、その方が負担になってしまう。日本出版学会の広報活動と割り切って、非会員の出席も無料とした。そんなこんなで、やっと研究発表会開催までこぎつくところなのだが、まだまだ当日が終わるまで、山も谷もありそうで怖い。今は無事に終わってくれることを祈るばかりである。

何かある時は重なるもので、2年に1度開催される国際学会である、国際出版フォーラムも今年が開催年である。当番学会は韓国出版学会であるから、どのように開催するかを悩む必要はないが、それだけに何を求められるのかが不安であった。当初の予定は、8月20日から8月22日であった。しかしこれも5月に11月への延期の連絡が来たものの、その後何をどうするのか連絡はなかなか来ない。発表のテーマは決まっており、立場上私も準備をしていたが、どのように行うのか連絡が来ない。普段通りの開催であれば、当番学会が同時通訳がつく会場を用意するのだが、オンライン開催という知らせが入ったまま、なかなか連絡が来ない。zoomでは、同時通訳をつけるのは困難だろうと気をもんでいると、8月にやっと韓国出版学会から連絡が来た。

ユーチューブでやるから、発表者がそれぞれ15分の動画を作り送れ、ということであった。どうやらオンデマンド方式の動画の講義と同じようなものにするらしい。届いた動画に通訳をつける、ということだろう。今回が当番学会でなくて良かった、とは思いますが、韓国出版学会のこれから11月当日までの苦労を考えると、本当にぞっとする。自分は発表用の動画を作れば事足りるが、国際学会を主催する学会は、そんな生易しいものではない。参加国に失礼にならないよう気苦労が絶えないことだろう。

只今国際出版フォーラムでの発表用の動画制作に取りかかっている。当番学会の韓国出版学会に迷惑をかけまい、と思えば思うほど精神的な負担が増していく。おそらく、数年後になって今年の状態を思い出す時には、「あの経験があったから、学会運営に困ることがなくなった」とでもいえるようになるのだろう。しかし、今現在はそんな気にはなれない。「もっと楽しみにしていたイベントだったはずなのに」という思いが、浮かんでくるばかりである。